

「あとの回は

イケるよね？」

夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻









ギシ

あ

いぢ...

あ

ギッ

ズッ

あ

ギシ



いん...

今更  
やめられないよ!

ゴ...



は

ズッ

ズッ

ん...



ギッ

はあ

はあ

は

ギッ



ドクン!

ドクン

ドクン!

望くんに  
無理やり...



あの日…

なんで  
あんなこと  
したの？

記憶…

戻ったんだね

学さんの  
誕生日で…

望くんが家に  
来た時のこと  
だけ…





私が  
思い出せない  
からって…

今まで  
だましてたの？



……ッ



言い出せ  
なくて…

ぎゅっ…



だますつもりは  
なかったんだ…

けど…



七海ちゃんを  
愛してるから

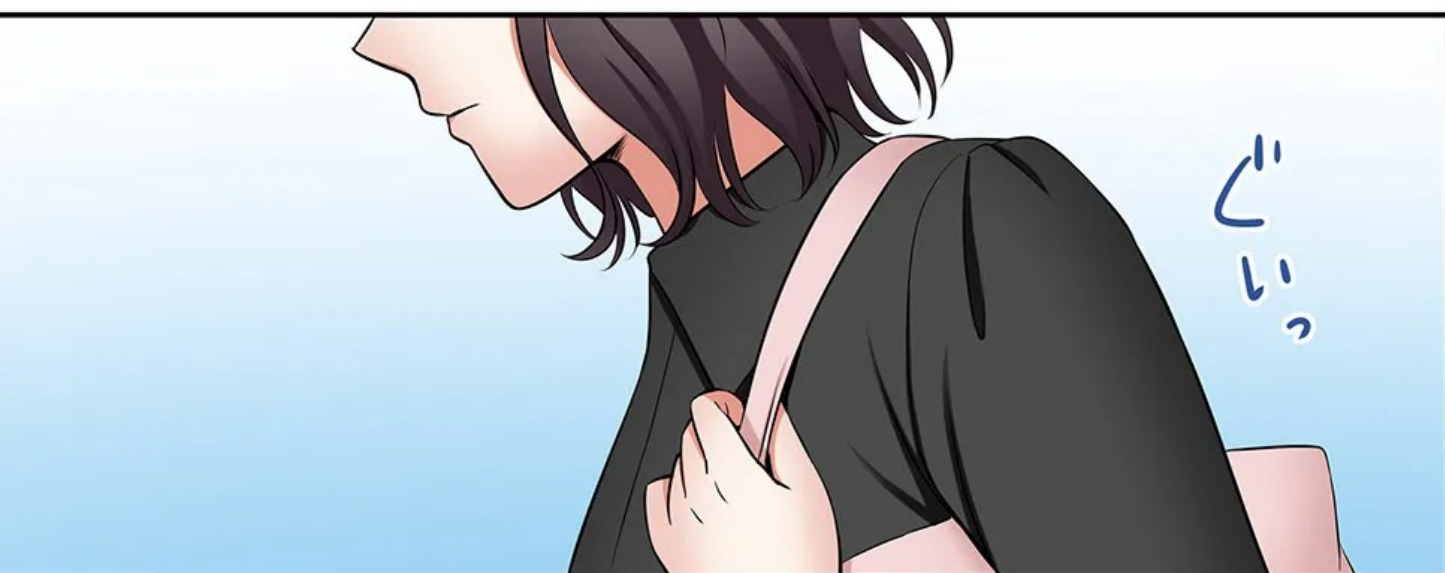
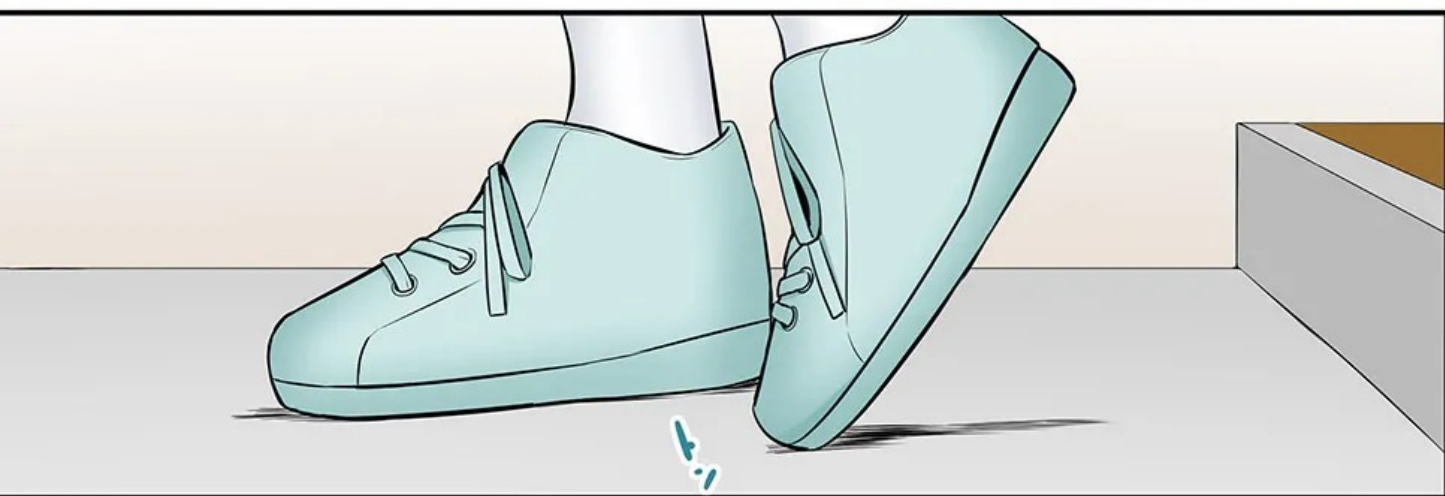


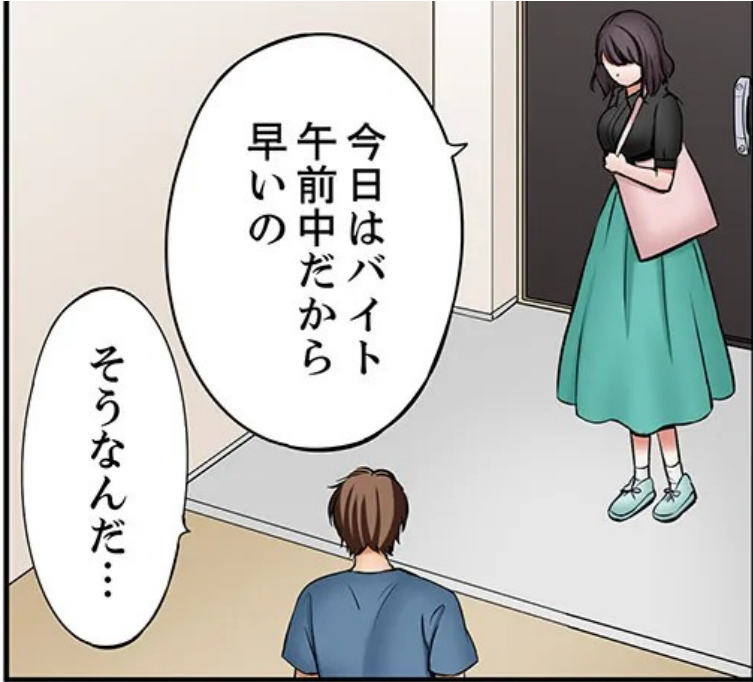
優しくて  
誠実で…

私の知ってる  
望くんは

失いたく  
なかったんだ…！







今日はバイト  
午前中だから  
早いの

そらなんだ…



どこ行くの？



望くんも  
仕事だろうし



俺  
車で送るよ

ええ



いってきます

あ…

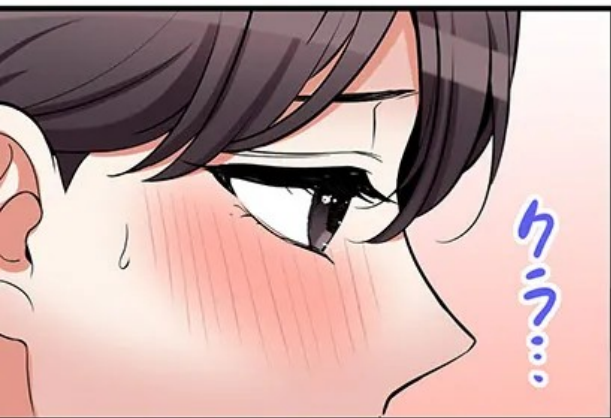
バタン



ここに  
帰ってきてね...



お待たせ  
しました...



キラ...



ハアッ  
ハアッ  
ハアッ

ちらっ



あの人  
田村さん  
また来てる...



他に男が  
出来たの？



ストーリーカー  
だったりにして...

正直：  
この人と  
付き合ってたとは思えない...





離れようと  
しなかったのは  
どうして？

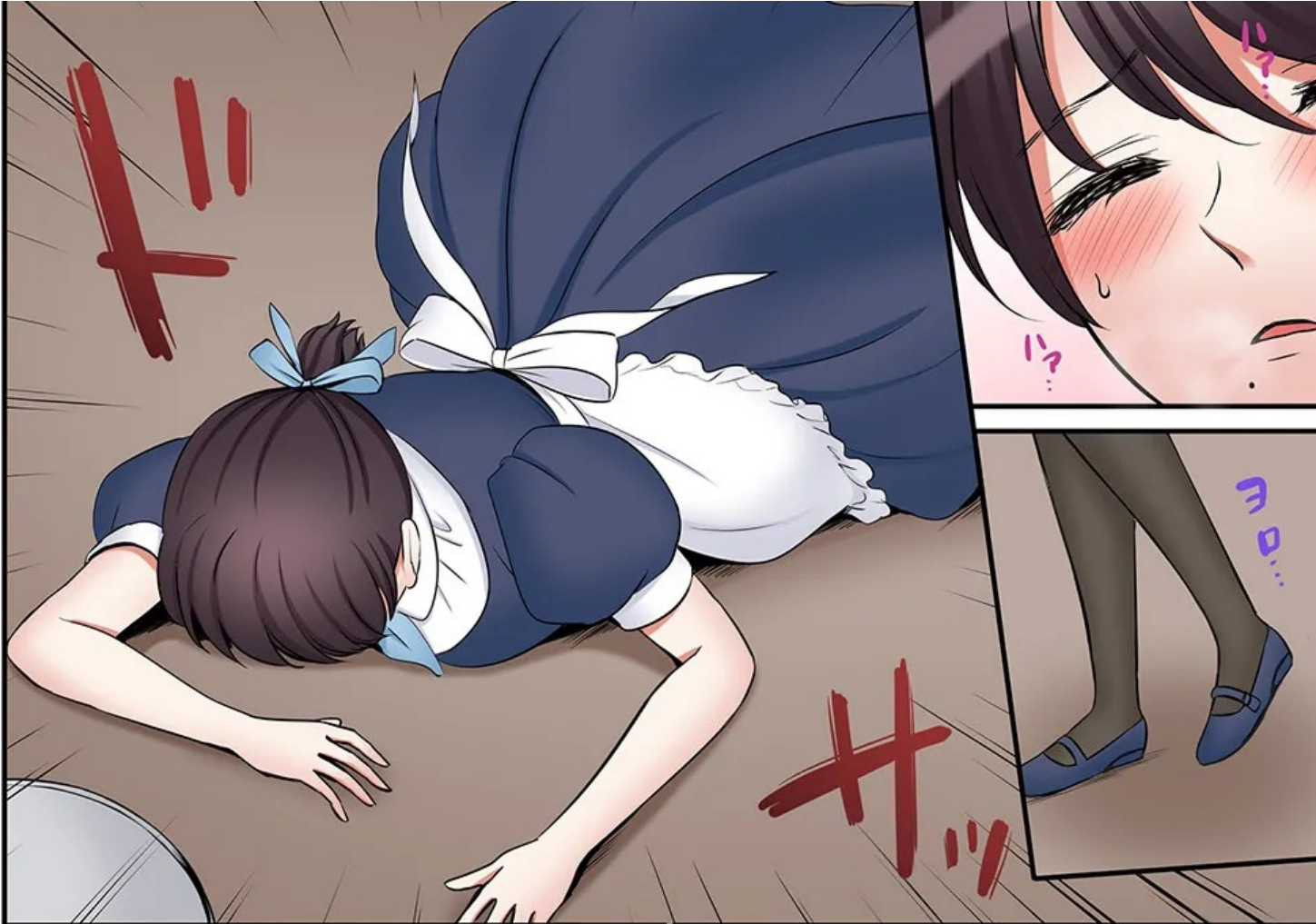
そんなにも  
望くんと  
の絆が  
深かったの…？



七海は  
どんどん  
望に惹かれて  
いつて…



あんなこと  
されたのに





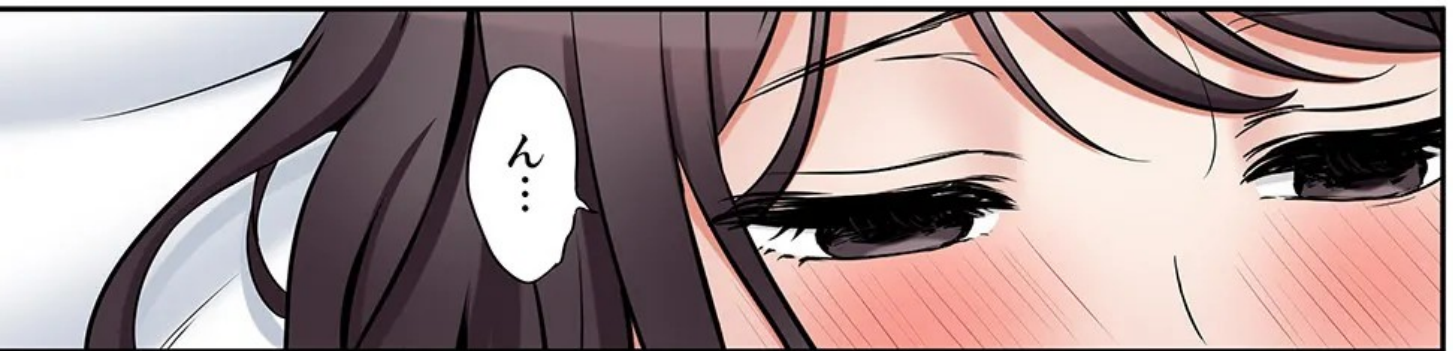
ほんとですか！  
助かりますっ

いい

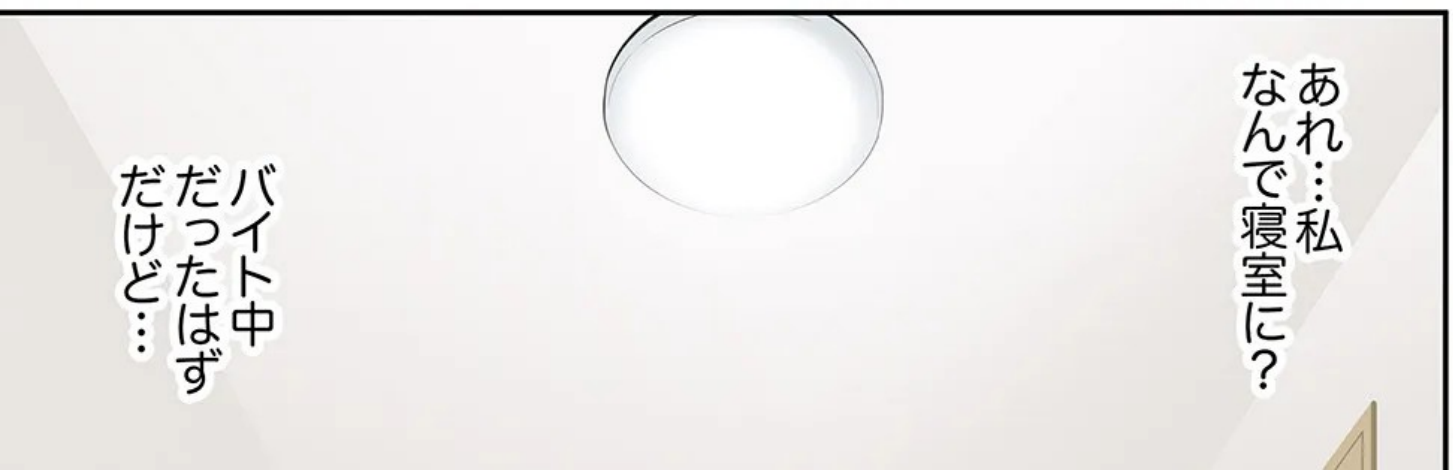


家まで  
送りますよ

僕  
彼女の知り合い  
なんで



ん…



あれ…私  
なんで寝室に？

バイト中  
だったはず  
だけど…







ここが  
君たちの  
愛の巣か…

ムカつく  
なあ



あの時  
藤咲さんが  
寝言で言った  
男のこと  
だったのか…

のぞむくん…



「のぞむくん」

どこかで  
聞いた名前  
だと思ったら



ひんやり…



僕は君が  
戻ってくるのを  
ずっと  
待ってたのに



藤咲さんツ!!

が

ばっ



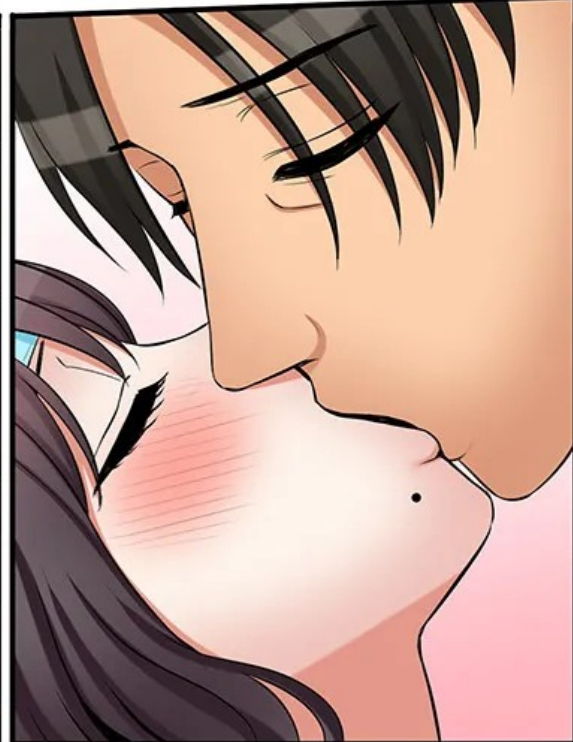
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

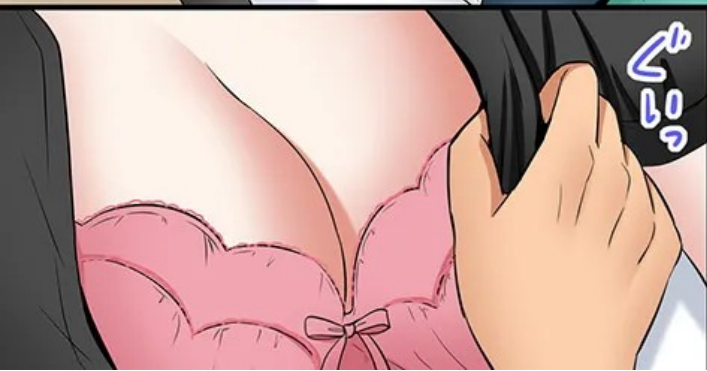
ん...

ぎゅっ



ちゅっ

ちゅっ



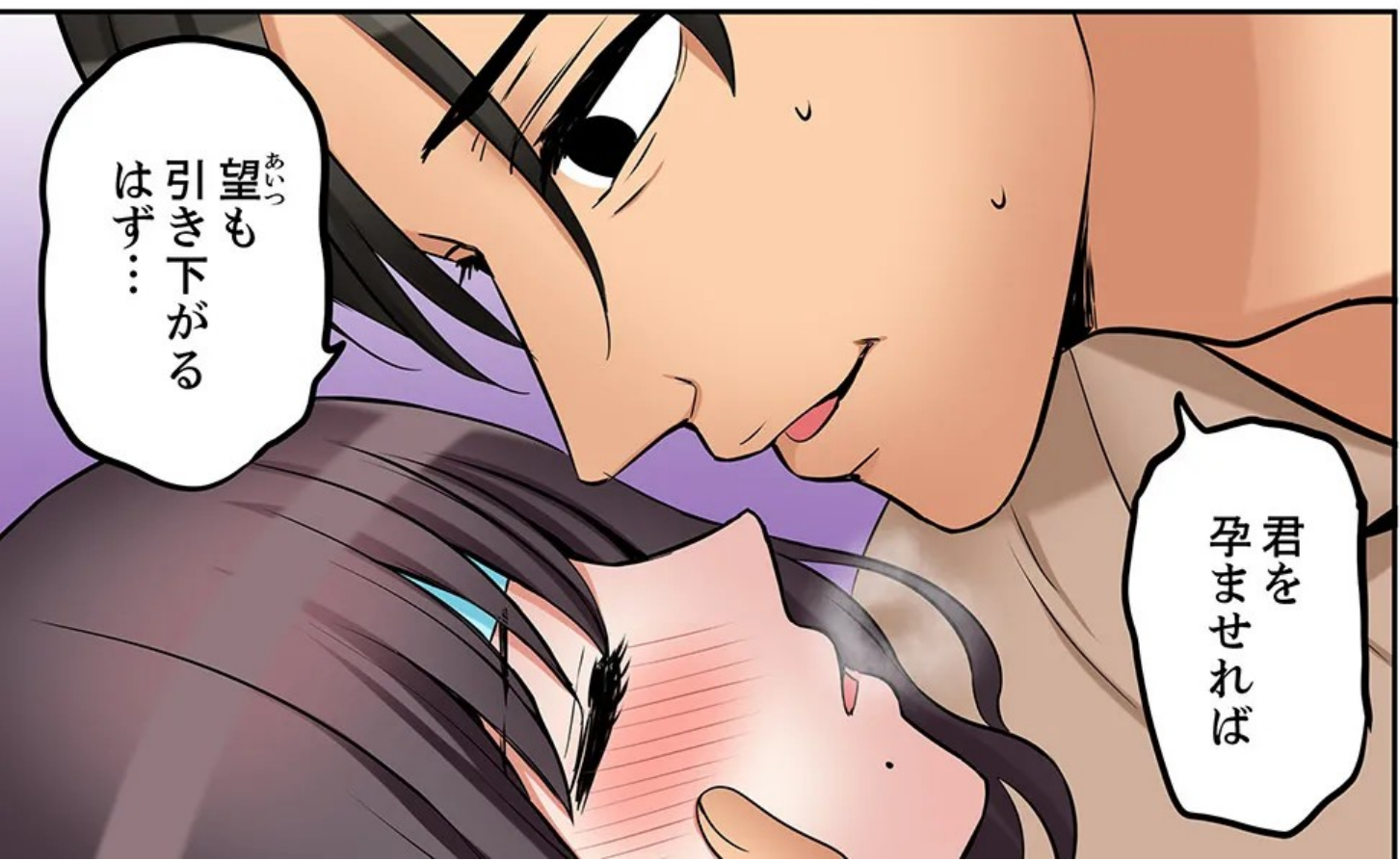
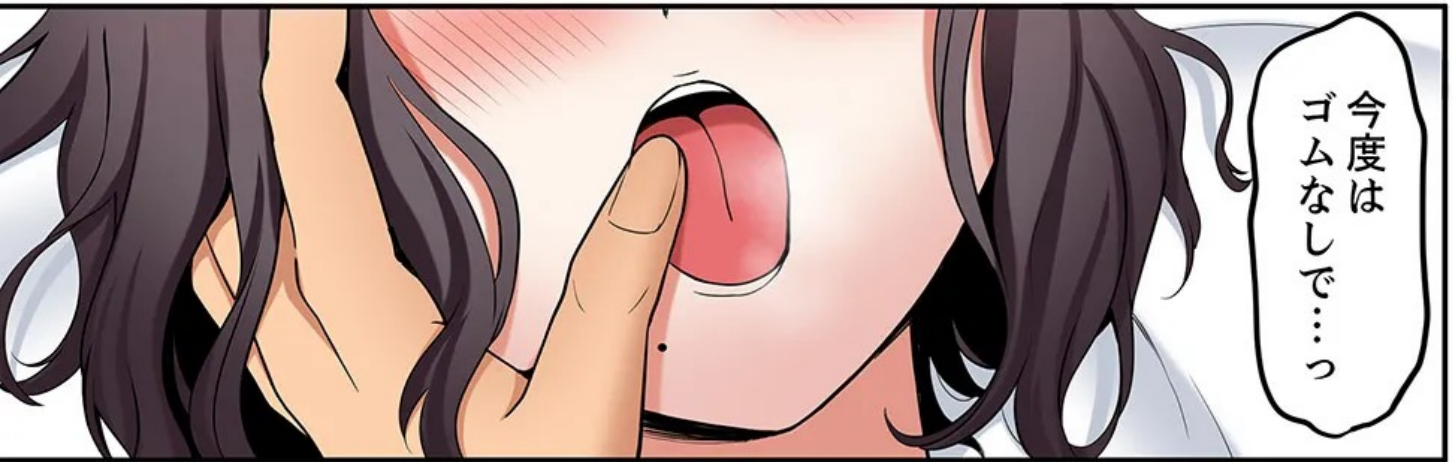
ちゅっ



ん...

ふっふっ







まだ全然濡れてないな...



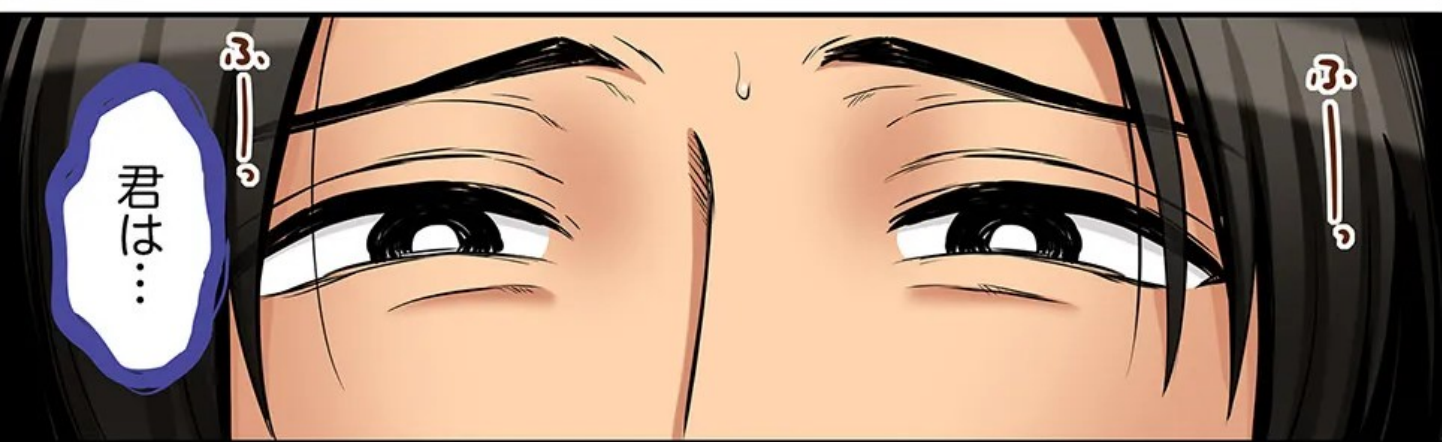
じつくり慣らしてあげないとね...

痛くないように



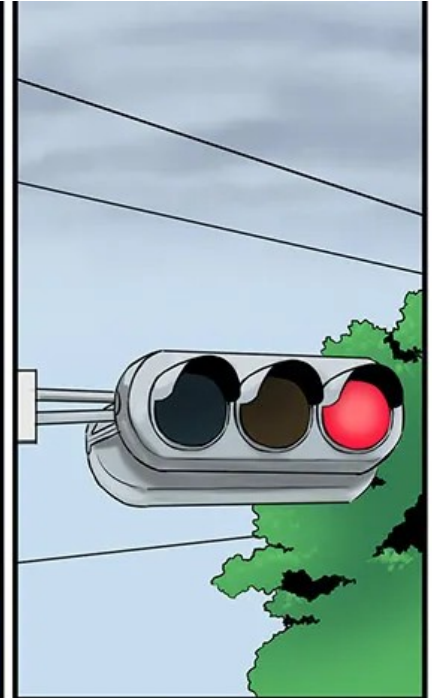
大丈夫だよ

いきなり挿入れたりしないから





今日は全然  
仕事に手  
つかなかつた…



ブォブォ…



七海ちゃん  
もう帰って  
来てるかな？



早く帰って



七海ちゃんと  
話したい…

# 「あと3回はイケるよね？」 夫の帰宅前、絶倫義弟に何度も ハメ倒される妻61

著者

七色風香

発行

モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。  
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。  
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、  
ホームページ上に転載することを禁止します。  
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。  
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR

「あとの回は

イケるよね？」

夫の帰宅前、絶倫義弟に何度もハメ倒される妻









七海ちゃんを  
連れて来れて

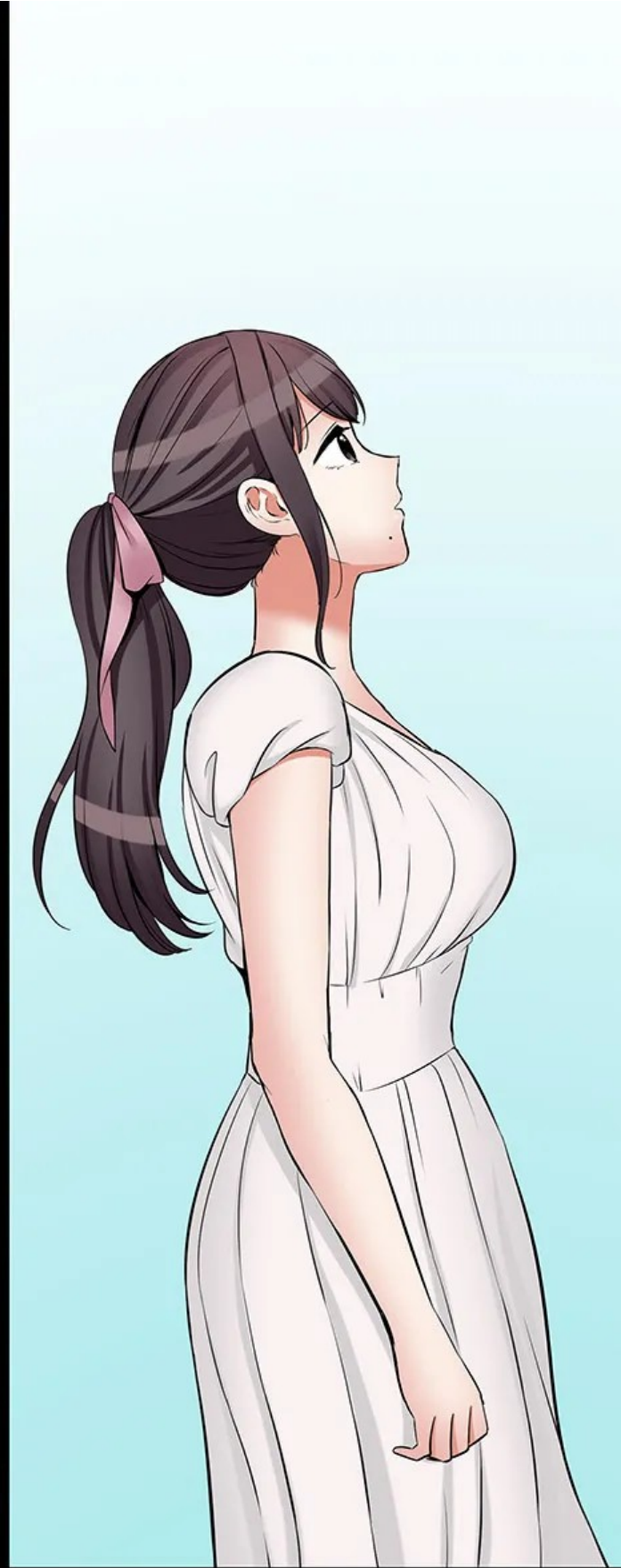
良かったよ



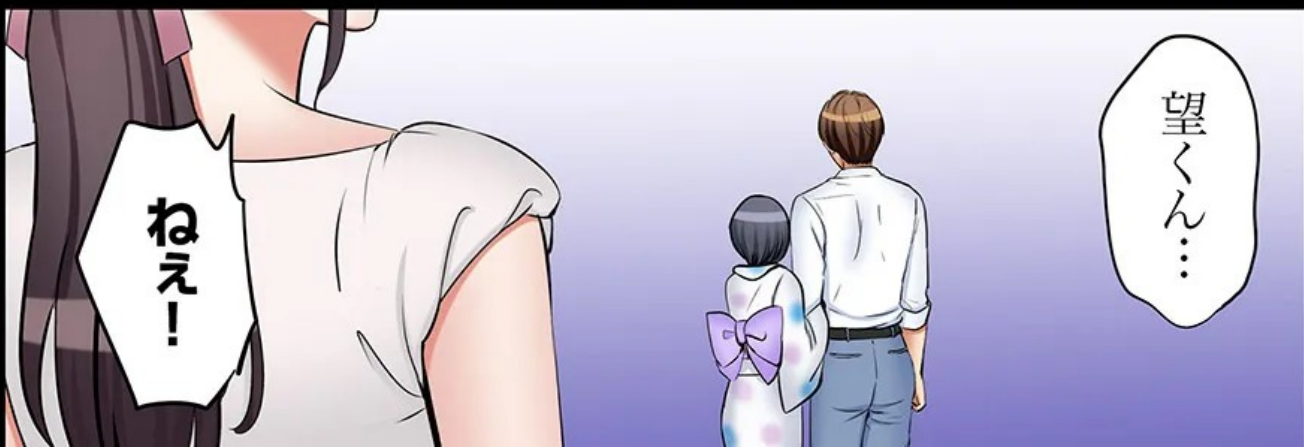




えっ...?



誰といるの...?



ねえ!

望くん...





僕がそばにいるから

え…



あ…そっか

ぼー…

私バイト先で熱出して

田村さんに家まで送ってもらったんだ…



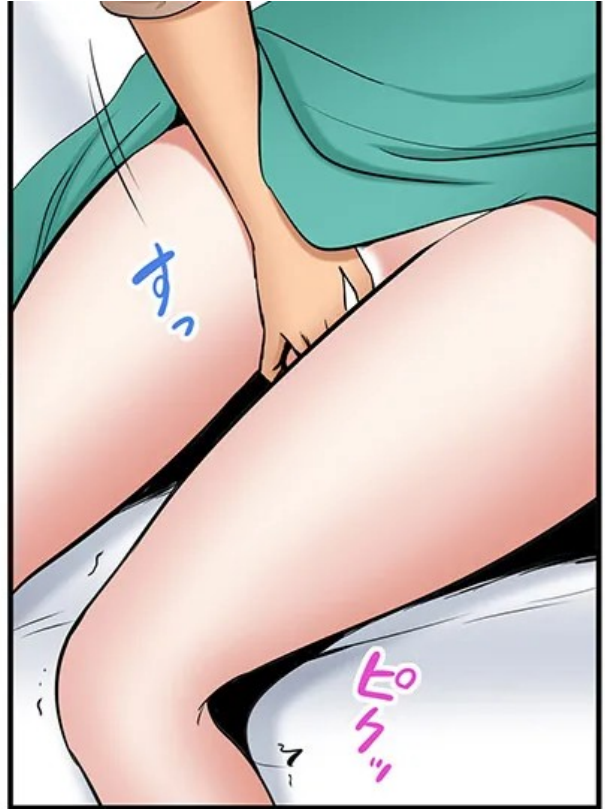
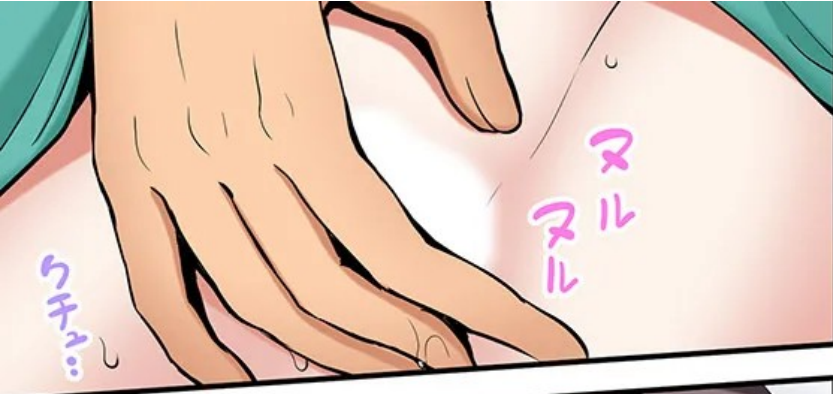
ぞわぞわ



スリ…

手柔らかいね







僕は君を  
諦めないよ！



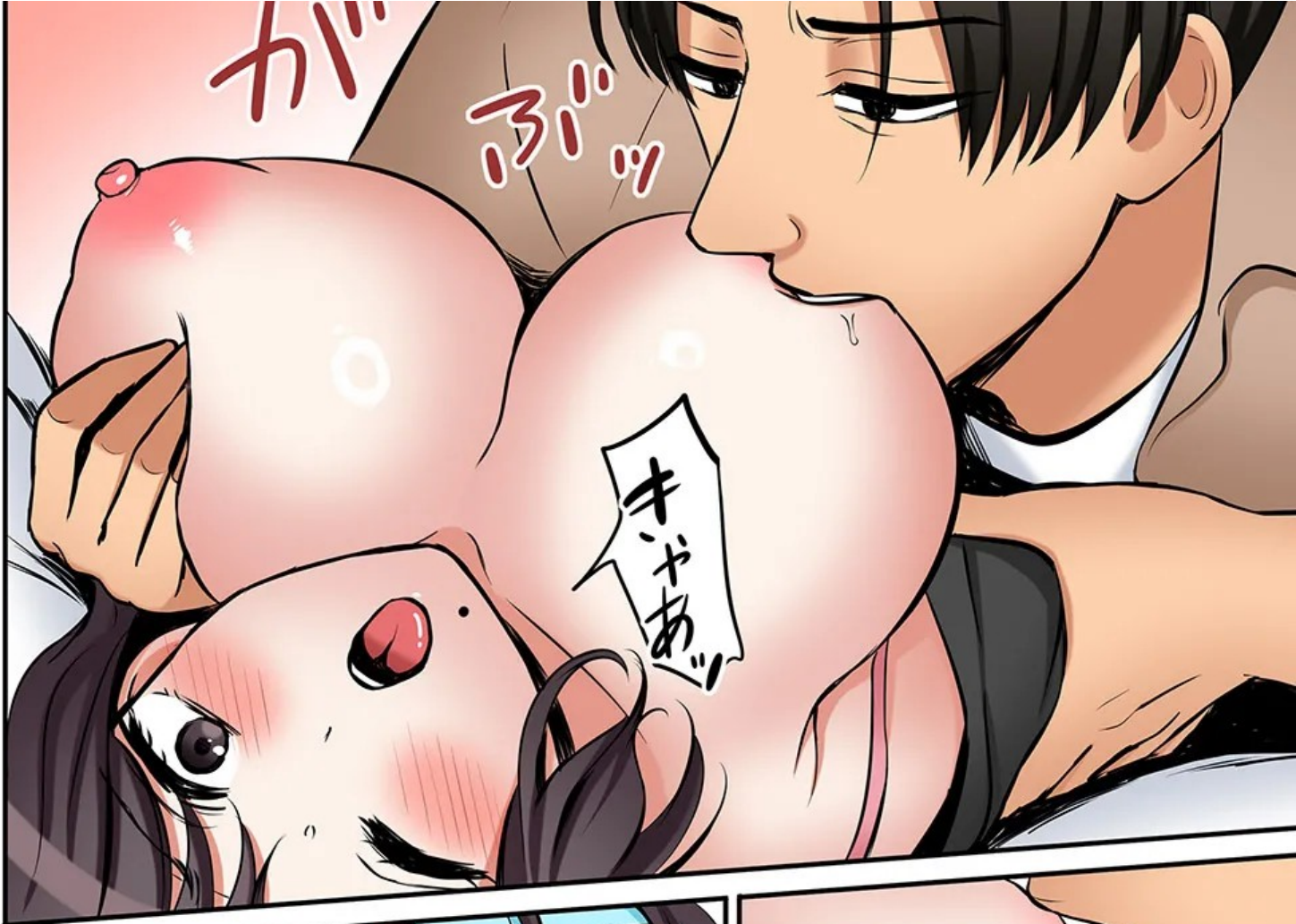
ッ...



...



そんなに  
望という男が  
いいのかい!?





君だつて  
気持ち良さそうに  
喘いでいた  
じゃないか

覚えてはいない  
だらうけど...

あ...ん

あ...



そ...  
そんな...

私この人と



そこまでの  
関係になつてたんだ...

ちゅっ

ビクッ

キュッ

うっ



あ...ん

びく

あ...



いやっ

今はもう…

ギシッ



あ…

ズルッ



ドッ



これから

思い出させて  
あげるよ

カチャッ



恋人だった  
としても



ああ…私

大丈夫かい

この人に  
職場で

藤咲さん

来ないでっ

!!



恋人同士なんて…

やっぱり嘘なんですね！



ッ…



出て行ってください！

今更ぐじ…



残念…

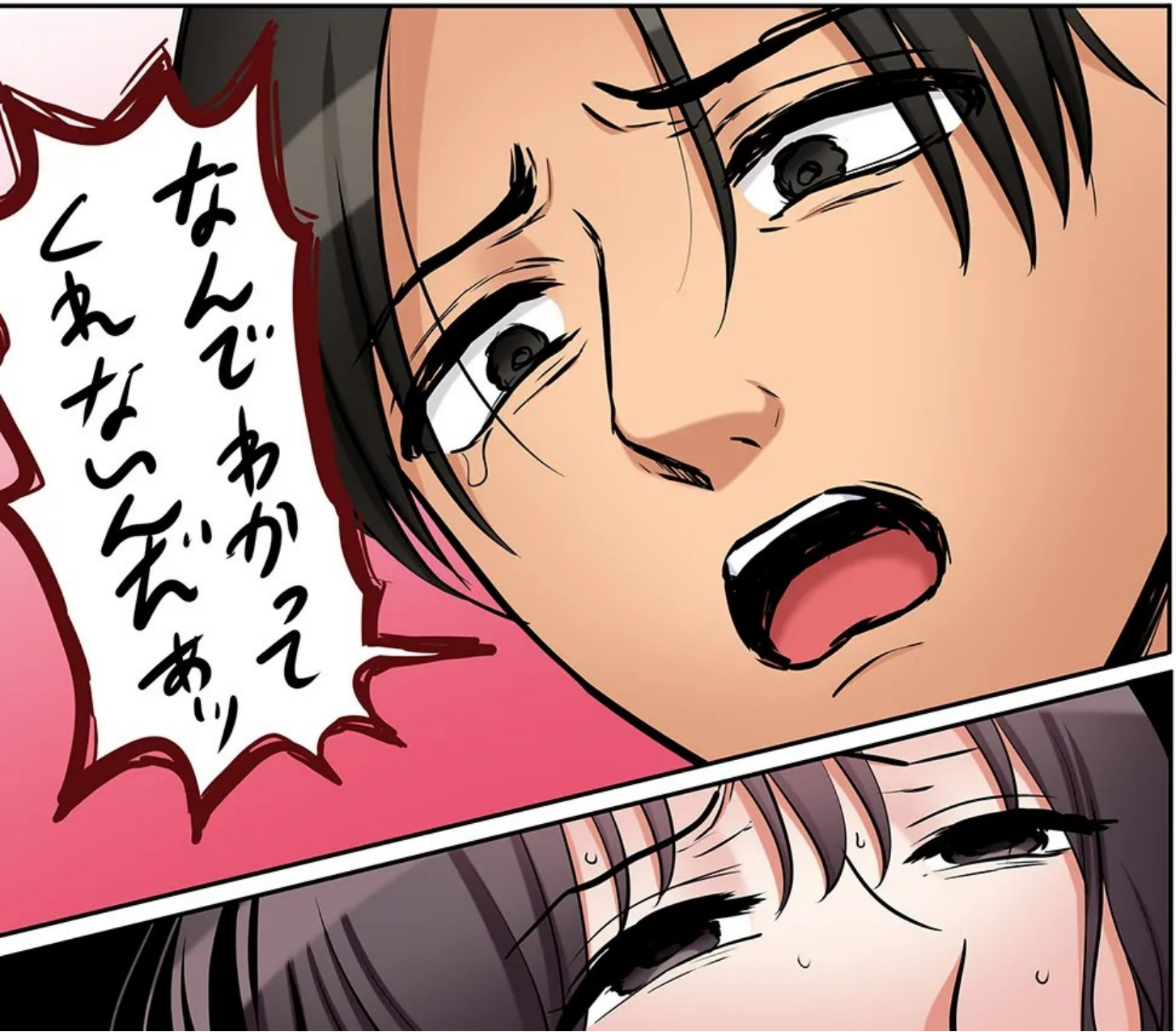
魔法が解けちゃったね…



今度こそ通報しますからっ

フッ



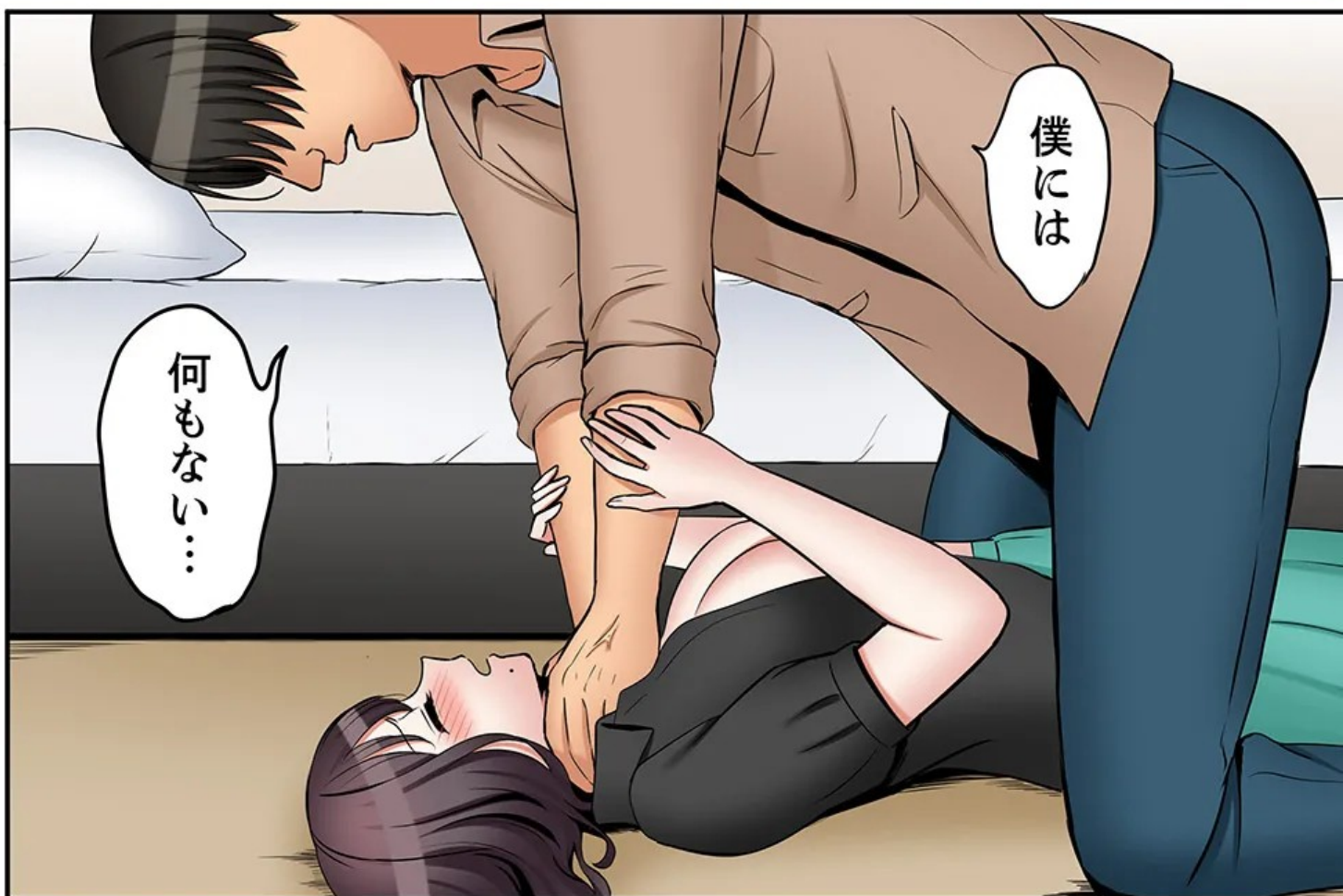




家へ帰っても  
独りぼっち…

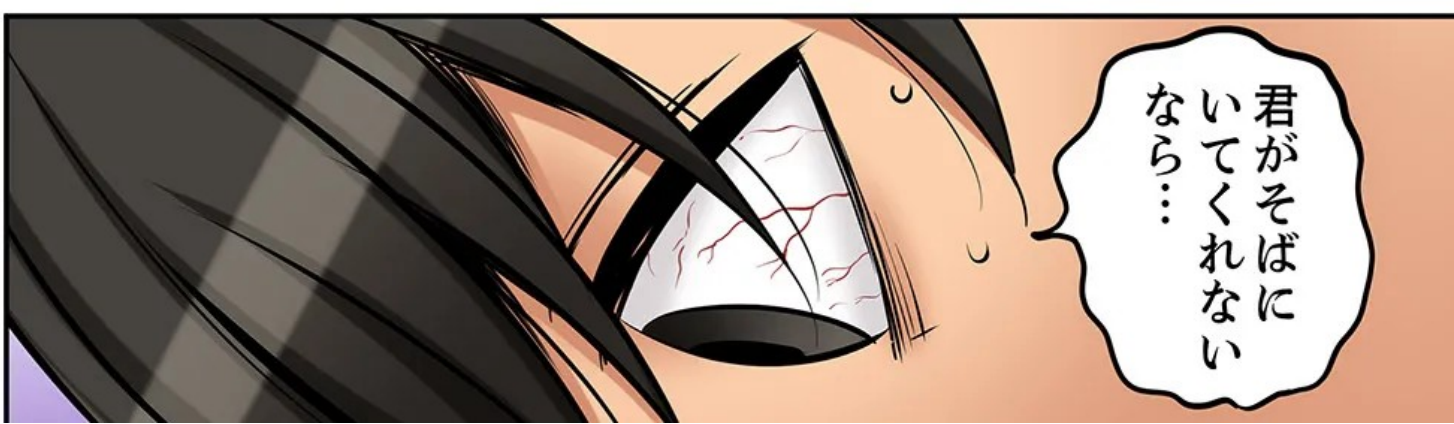


職場では  
部下から  
馬鹿にされ…

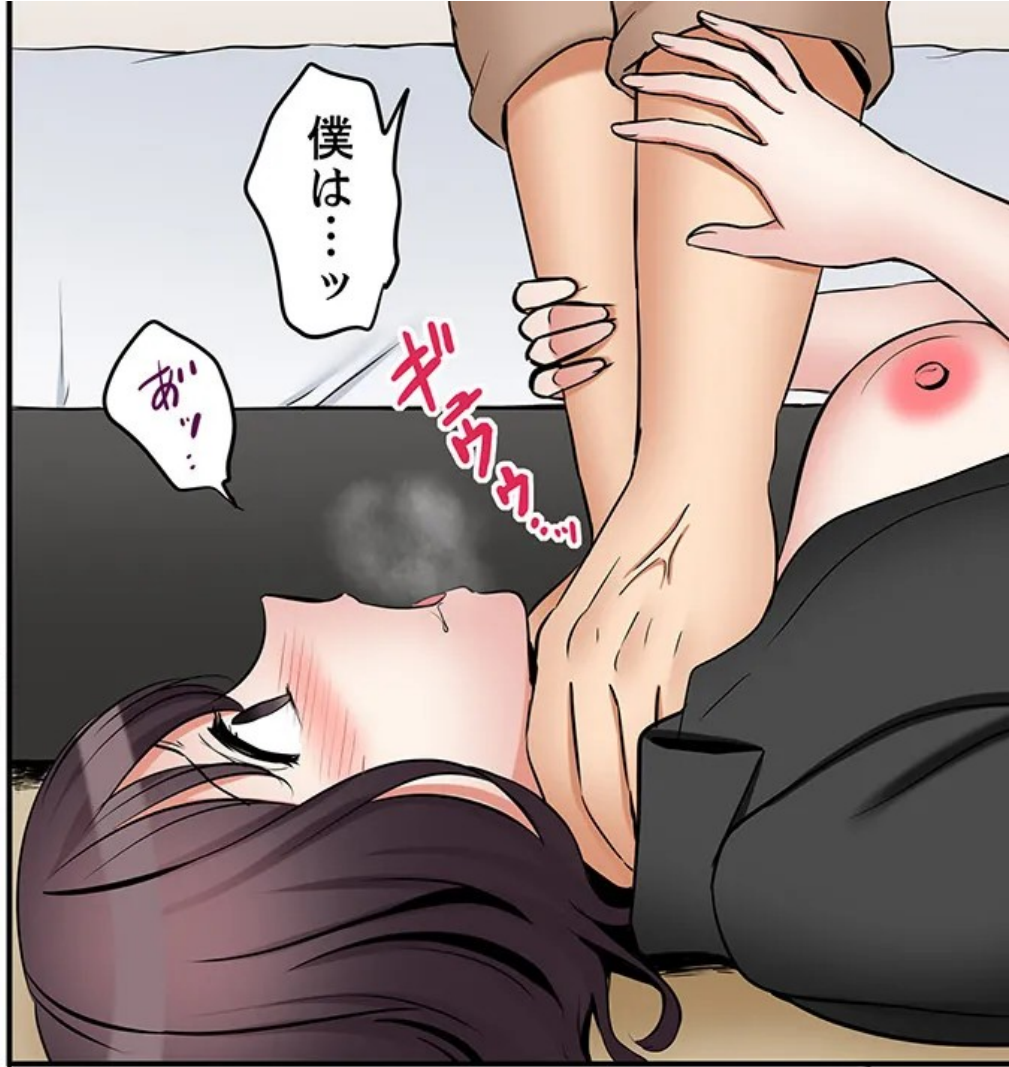


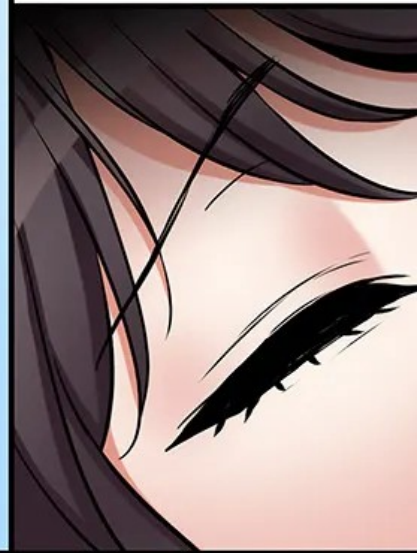
僕には

何もない…



君がそばに  
いてくれない  
なら…





今朝望くんに



笑顔で  
「いってきます」って  
言えば良かった…



あれ…？



私…死んだの？



まさか  
こんな終わり方  
するなんて

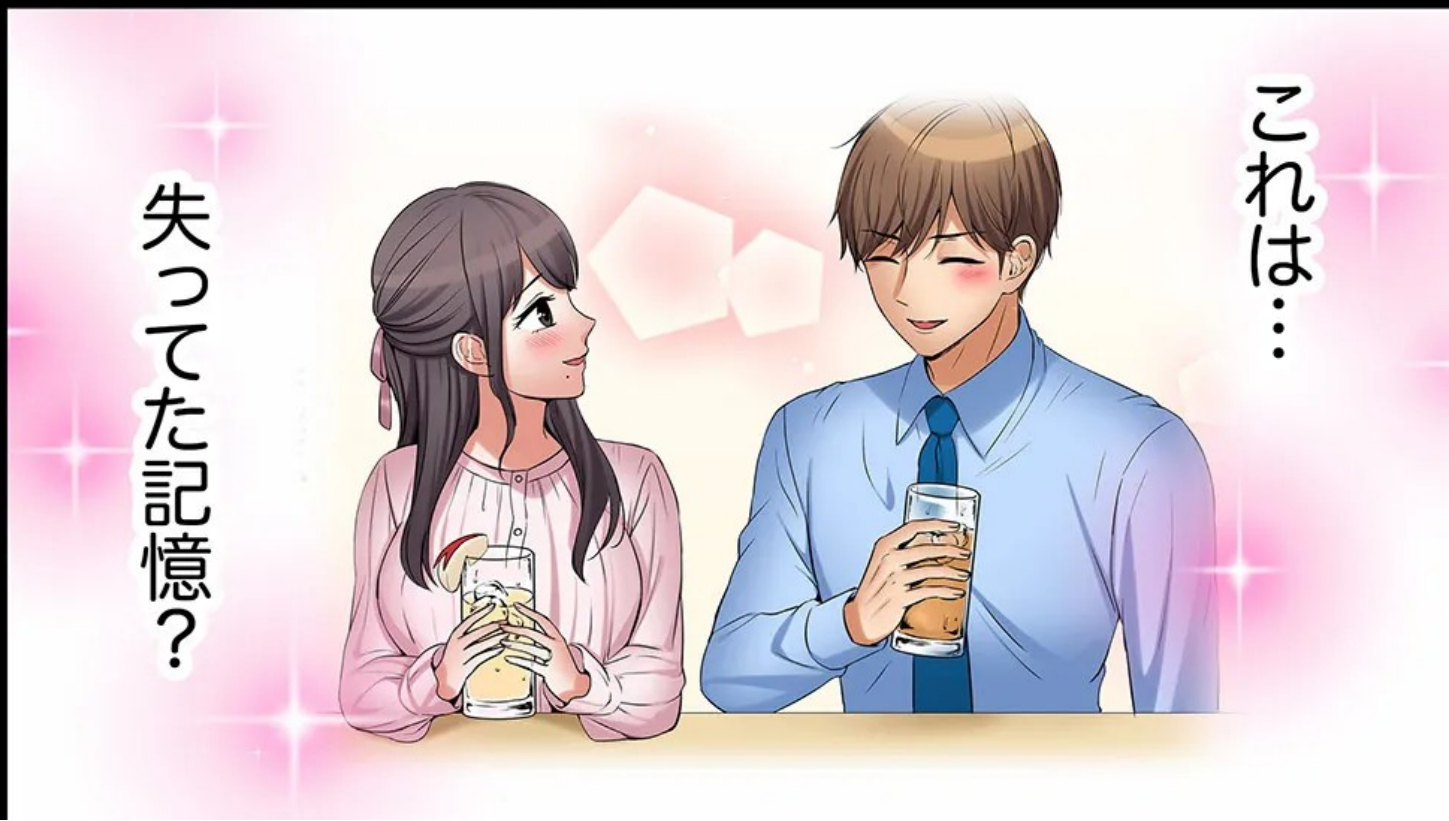
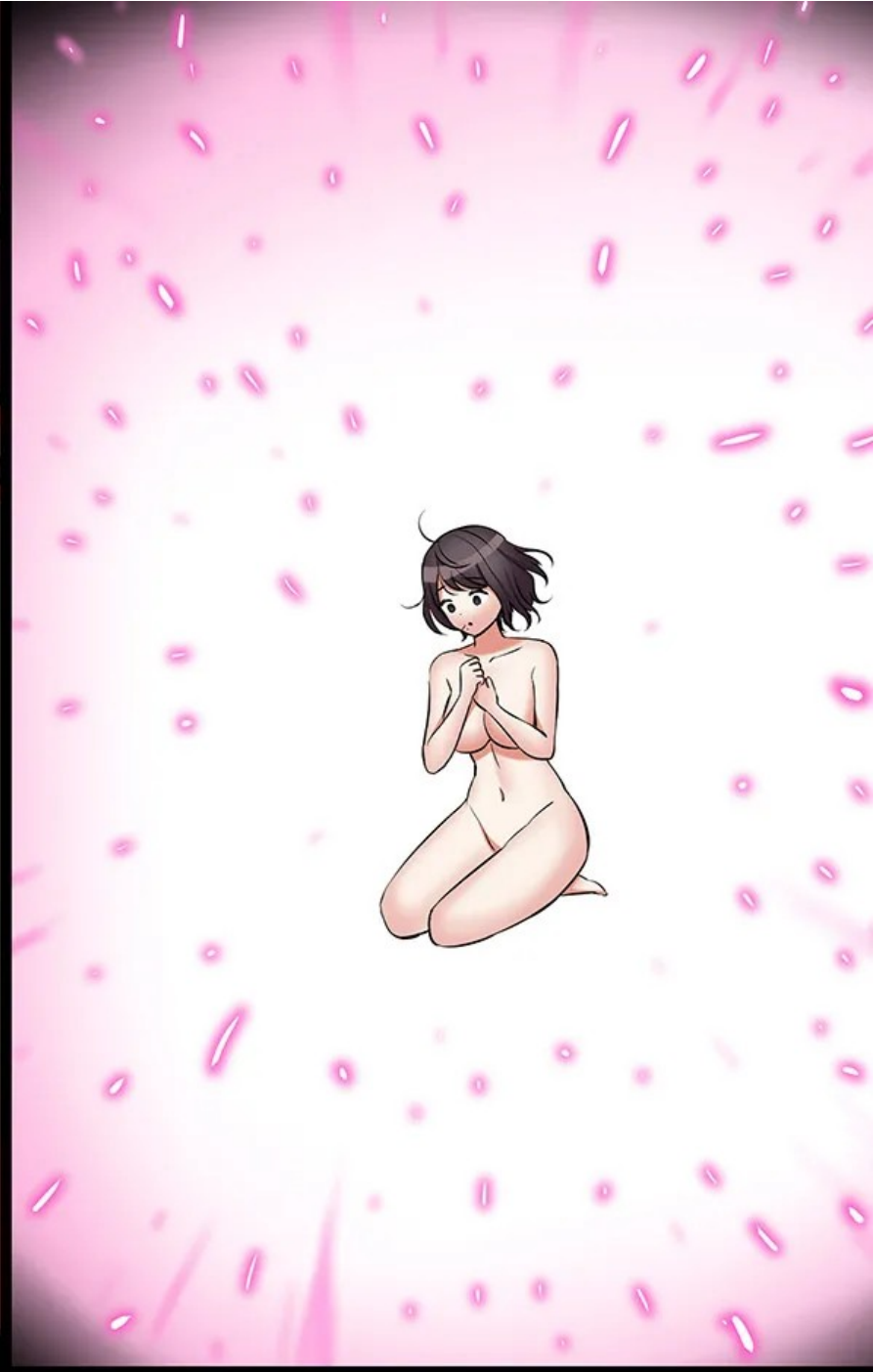


思わなかった…



何…これ？





失ってた記憶？

これは…



こんなに

色々なことが  
あったなんて…

ビクッ

びく

やっと全部  
思い出せた…



私…  
自分が思ってた  
よりもずっと



望くんのことが  
大好きだったんだ…



# 「あと3回はイケるよね？」 夫の帰宅前、絶倫義弟に何度も ハメ倒される妻62

著者

七色風香

発行

モバイルメディアリサーチ

この物語はフィクションです。  
登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。  
本作品の全部あるいは一部を無料で複製・転載・配信・送信したり、  
ホームページ上に転載することを禁止します。  
本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。  
また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©Fuka Nanashiki/MMR